



合理的配慮（個別的配慮）を
考える前に...

担任がまずすべきこと

☆安心して学べるための土台作り
◇授業への参加を促す環境設定の工夫
◇全員に「わかる・できる」授業の工夫
～授業のユニバーサルデザイン化～

※それでも取組みの難しい児童生徒

合理的配慮（個別的な配慮）

⑤ 先生も環境のひとつ（人的環境）
子どもとの関係づくり

- 誰もが、得意なこと苦手なことがある。
「できない」ことが言える学校。
- 子どもたちのよい姿を認め、全体に広げていく。
- 学級の中に、一人一人の居場所をつくる
＝所属感・自己有用感
- 共感する
「悲しかったね。」
「こうだったね。」など言葉に変えてあげ
共感する。

今日は職員会議の日です。昨年度の本校の取り組みを通して、様々な理由から学びにくさを抱える生徒や、学習に苦手意識をもったりしている生徒の学びを支え切れていないという課題が見えてきました。そこで、今年度から子どもたちから学ぶ職員集団を目指し、職員会議に子ども理解の研修を位置づけました。

今日は長野養護学校の教育相談の先生をお迎えして「ユニバーサルデザイン化と合理的配慮」をテーマに、実際の生徒姿をもとに子ども理解とその支援のあり方について話を聞きました。初任者の先生が、日頃の指導のあり方について質問したり、研修後講師の先生に相談する先生がいたりして、先生方の学ぶ姿勢に感心させられました。



先生方との面談をしています。今年は、新卒者が2名、初めて教職に就く方が1名、中学校が初めての先生が1名いるので、初めての仕事や新しい職場で、どんな気持ちでいるのか気になっていました。新卒の先生は「いろいろな仕事があって大変ですが、子どもたちと一緒に過ごす時間はとても楽しい」と話してくれました。また、初めて教職に就いた方からは「周りの先生方が丁寧に教えてくれるので、わからないことも聞きやすい。私もそんな先生になりたい」という話が聞けてホッとしました。子どもだけでなく先生方も幸せを感じる「TEAM 飯綱」を目指します。